

会報

No. 41

平成9(’97)年1月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069ご
あ
い
さ
つ

京都府立図書館に赴任してから九ヶ月が過ぎました。これまで京都府立総合資料館、宇治市中央図書館、京都府立医科大学附属図書館と約三十年間に三ヶ所の図書館を経験してきましたが、京都府内の広域図書館は初めてです。

図書館ということでは同じですが、利用者のニーズにはそれぞれ違いがあります。

ところで、人は適度な緊張と新しい刺激を受けて、学んでいくもののようにです。特に私は刺激を与えられないと勉強しないタイプであり、その意味ではいくつかの図書館を体験したことはその都度新たな緊張感を与えた大変良かったと思っていま

す。

府立図書館へ着任当初、できるだけ早い時期に府内各図書館・読書施設すべてを訪問し、ごあいさつと施設の見学をさせていただきたいと思つ

ていましたが、まだ実現していません。しかし、毎日の府内の図書館などからのリクエストや電話による問い合わせなどにより、間接的ながら図書館等の状況については知ることができます。それとともに、府内の図書館等は着実に充実してきていることが実感できます。

うれしいことといえば、平成八年六月一日に宇治田原町立図書館、七月一日に美山町立図書館が相次いで開館されたことです。それぞれすればらしい式典に出席させていただき、ピッカピカの図書館見学や職員の方々との会話など楽しくうれしい一時でした。住民が自ら学び、親しまれる図書館に大きく成長されることを心から願うものです。このように府内の図書館等が充実されていくなかで、この度、京都府立図書館にもうれしい動きがありました。府立図書館と府立総合資料館の資料を一体化した新しい府立図書館を建設するとのニュースです。念願の新府立図書館建設が決まったのです。

新府立図書館については、京都府教育委員会が平成八年度中に基本設計の策定に向けて鋭意努力中です。これまでの経過については新聞等でも御承知のことと思いますが、「新しい図書館」「二十一世紀に対応できる図書館」「マルチメディアを最大限活用した図書館」「府内市町村の

京都府立図書館長 五十嵐 一郎

新府立図書館は平成十二年度中の開館をめざしています。来年度からは新館への準備作業にとりかかる予定です。その間府内の図書館等の皆様には御迷惑をおかけすることになりますが、その節は御理解と御協力をよろしくお願ひします。

終わりに京都府図書館等連絡協議会ならびに府内市町村立図書館等の発展を心より祈念いたしましてごあいさつとさせていただきます。

国会図書館関西館（仮称）と府民を結ぶ図書館」「京都のことならなんでもわかる図書館」が大きなキーワードになっています。

二十一世紀は目前です。図書館でもマルチメディアは大きな役割を果たすでしょう。とりわけ情報ネットワーク化が進む中で、これからはそれぞれの図書館が役割を果たしながら相互に協力関係を結んでいくことになるものと考えています。図書館も変わらざるを得ないと考えます。しかし、図書館である限り、利用者の求めに応じて本や情報を提供していくという基本的機能は変わるものではありません。このことをきつちりと受けとめ、変えるべき部分は大胆に、変えない部分はしっかりと維持していくかなければならぬないと考えています。

全公図・近公図研究集会

◆全国図書館大会

に参加して

京都府立図書館

川野並子

去る十月二十三日から三日間、大分県別府市と大分市で開かれた第八十二回全国図書館大会は総勢二千人を超える参加者が集い、図書展示や、ニューメディア展には二十五社が参加するなど盛況でした。

大分県は昨年二月に新図書館を建設し、「図書館作りマニュアル」で、積極的な図書館振興策を打出しています。初日の知事の講演によると、大分県の図書館政策は知事が提唱した「一村一品運動」の延長線上にあるとし、図書館を郷土の活性化のセンターと位置付け、図書館人は地域の文化行政の一端を担わねばならぬと強調されました。

私が参加した第一分科会「生涯学習時代における図書館活動のステップアップ」では、埼玉県立浦和図書館長の基調講演に続いて、浦安市立図書館長の「本の案内」サービスについての報告がありました。これまでの図書館サービスの在り方は利用者の要求を的確に受け止めているのか、レファレンス室を置くことで、

貸出し返却業務を越えた質の高いサービス体制だと甘んじていいかななどを検討し、専属の「本の案内」を設けたとのこと。現場の状況に即して、業務の効率化とサービスの向上を図り、

たのこと。現場の状況に即して、業

務の効率化とサービスの向上を図り、
 ◆全国公共図書館研究集会
 奉仕部門に参加して

久御山町立図書館

塩見寿秀

京都市中央図書館

竹村佳子

平成八年度、全国公共図書館奉仕部門研究集会が福岡市で開催された。

今回の研究集会に参加して、図書館を取り巻く現状、これから図書館がやらなければならぬ課題等、聞かさせていただき大変刺激になりました。

薬袋先生の基調講演では、図書館サービスについて、「読書案内

「図書館とは文化創造の場であり、文化交流の場である」を目指す図書館を、図面を見ながら説明。近年の

公共図書館が、貸出しとレファレン

スを基本的任務として発展してきた

動向に新たな一石を投じるもの印象大。他に神奈川県立図書館のネッ

トワークシステム K.L.N.E.T の報

告。電算基本計画から十年を経て現

在、市町村立、大学、県機関など

「専門性の認識」をすることが重要

なことであると話されました。事例

職員論では、「職員の自己改革」、

「専門性の認識」をすることが重要

なことであると話されました。事例

発表では、春日市民図書館が開館一

年半で大変たくさん行事等をして

来られたことは、新しく開館の息遣

いを感じました。又伊万里市民図書

館は市民みんなのもの」であるを基

本に、市民と一緒に図書館づくりをされたことは、今後の運営に

おいても力強さを感じる思いでした。

大分県立図書館の振興策の中で、

「古い（寝たきり）図書館の改善」

をする必要があると述べられること

は、我図書館も開館して十年がたち、

一度原点に戻って見直しをしなければ、考えさせられた研究集会でし

た。

大会すべてを通じて、図書館にかかる人々の熱い思いが伝わる集い、印象を深く感じた三日間でした。

近畿公共図書館研究集会
参考事務部門事例発表
◆「ツールづくりとその活用」

京都市中央図書館

竹村佳子

京都市中央図書館のレファレンス

処理件数は年々増加し、処理時間を短くする工夫が特に重要になっています。また新米、ベテランにかかわらず

一定水準以上の回答が出せる手段として工夫したツール作りは欠かせません。レファレンスを成功させるためには、

参考図書に精通しコンピューターの検索技術を高めることができ一番ですが、そ

れらがあまり役に立たない質問もあります。一冊一冊の中身を調査して時

間をかけて回答した記録は、次に同様の質問があつた時大変便利です。当

館ではこれらを分類や件名順に並べ変えたレファレンスファイルとして残

したり、質問の多い分野の調査をスムーズに行えるためのツールとしては内容

の検索手段がわかる全集の一覧や、

京都の地域誌として有効な学校の記念誌リスト、年代順に並べた京都の古地図リストといつたものを用意して

います。ただこれらのツールは、新着図書の書き加えや除籍資料のチェック

といったメンテナンスが常に必要です

が十分にされているとは言えません。

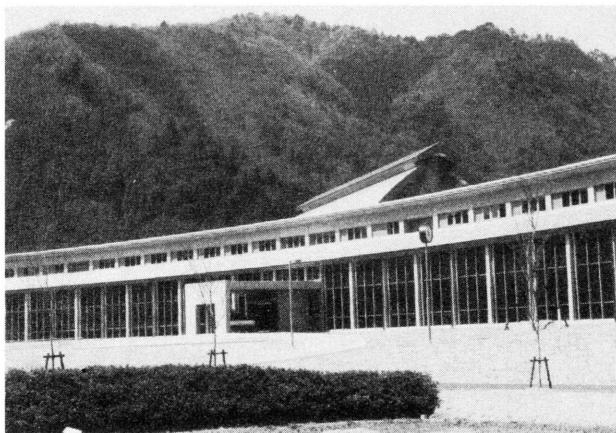
信頼性の高いものにしてパソコンに入

力しデータベース化する事が今後の

課題だと思います。

新
館
紹
介

美山町立図書館



美山町の文化の拠点として、平成八年四月に「美山文化ホール」がオープンしました。

美山文化ホールには、客席が五二〇席のホール、ギャラリー、喫茶室のあるホール棟と、図書館、議場、会議室、議会事務局室、教育委員会事務局室のある庁舎棟を備えた複合施設です。

ホール棟の外観は、美山町のシンボルである「茅葺き民家」をイメージしたデザインで、庁舎棟は二階建て、前面ガラス張りになっています。

周辺には芝生と人工池があり、広い駐車場も完備しています。

図書館は、資料管理を三ヶ月かけて、今までのブラウン式からコンピュータ管理に変更し、七月にオープンしました。場所は二階部分にあり、

一八三・四〇平方メートルあります。親子で利用してもらえるよう二畳分の児童コーナーと、二〇席の読書コーナー、四席の視聴覚コーナーを設けています。また、土・日曜日を開館して、月一回の巡回図書館も行っています。

収蔵冊数は、図書一万二千冊で、オープニング三日前にAV書架や文庫・新書書架を購入し、図書一万冊（府立図書館の貸出文庫五千冊を含む）、視聴覚資料（VTRのみ）七〇点、



雑誌十五タイトルでスタートしました。その後、新刊も順調に購入し、現在では図書一万二千冊、視聴覚資料は、VTRとCTで二七〇点ほどとなりました。

さらに七月二十三日には、亀岡市立図書館をセンターハウスとして、京都学園大学と三者で結ぶ「図書館情報ネットワークシステム」を稼働しました。

物流にはまだまだ検討の余地がありますが、資料も予算も少ない当町では、専門図書などが借りられ、ありがたいシステムと喜んでおります。

今後は、図書館情報誌の発行や、図書館行事を検討し、住民のみなさんにもっと身近に、気軽に利用してもらえる図書館にしていきたいと考えています。



京都市岩倉図書館

新加盟館紹介

平成七年四月十八日に、自然に恵まれた歴史と伝統の地「岩倉」にオープン。（会報三十七号「ニュース・News で紹介）

それから一年後の平成八年三月末現在では、

登録者数	七、一三三人
貸出者数	六〇、二八二人
貸出冊数	一九九、一四九冊
蔵書冊数	三〇、三二七冊

『図書館はあなたの暮らしのよきにのぼりました。』

『図書館はあなたの暮らしのよきにのぼりました。』

『図書館はあなたの暮らしのよきにのぼりました。』



図書館大会

主催 京都府図書館等連絡協議会、(社)日本図書館協会
後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会、田辺町教育委員会

研修概要

第五回京都図書館大会が平成八年十二月五日、田辺町立中央図書館を会場として開催されました。

インターネットに代表されるように図書館をとりまく環境が変化しつつある中で、生涯学習社会において図書館への要求は増え多様化してきました。そこで、我々はどのようなサービスを目指していくべきなのかを探るべく、『図書館サービスと職員の役割・課題』をテーマに報告・討議がくりひろげられました。

主催者として日本図書館協会酒川事務局長が、「国際国会図書館関西館の開館を控え、京都府としても確固たるビジョンを持つことが重要である。」また、京都府図書館等連絡協議会高向会長は「図書館サービスを原点から見直してみなければならない」と挨拶をされました。続いて田辺町教育委員会吉山教育長より歓迎の挨拶をいたいた後、以下のとおり報告がなされました。また、交流協議では、府立図書館についての経過説明を求める声が出るなど、館種を越え活発な意見が出されました。

図書館をめぐる環境の変化は、図書館員にとって「厳しい時代」と言えるかもしませんが、館種を越えて連携を深め、サービスの向上を目指すことを確認し、閉会となりました。

代」と言えるかもしませんが、館種を越えて連携を深め、サービスの向上を目指すことを確認し、閉会となりました。

基調報告

図書館サービスと

司書の役割・課題

報告者 大城善盛
(同志社大学教授)

この秋、一ヶ月観察してきた欧米(米国・カナダ・英国)では、電話料金が(とりわけ米国にあっては)安いこともあって、公共図書館でもニューメディアによるサービスが進んでいる。これからの日本でも、図書館の司書は情報スペシャリストとして、情報化に積極的に取り組んでいくべきだと考える。

さて、今日の生涯学習社会・情報化社会にあって、図書館にはどんな役割が期待されているのだろうか。専門図書館をはずして考えるなら、①利用者の望む情報・資料を提供することにより、各々が生涯学習をすることを助けること。

②利用者自身による、情報リテラシー(情報を収集・整理・加工し利用する能力)を自然に高めること、(ほかに、公共図書館では、楽しむための読書・レクリエーション機能)が挙げられる。

きである。未導入館の職員も、少なくとも個人加入などにより、使えるようになる必要があると思う。

次に、②の利用者の情報リテラシーを身につけてもらうための積極的なサービスについては、司書が「情報

源についての、きちんとした知識と技能に基づいて」レファレンスを積極的に行うことが肝要である。

この点に関連しては、館長はじめ司書が貸出しカウンターに立つて利用者の要求をじかに受け止めるとい

う点だけを強調することによって、レファレンス・サービスが軽んじられないかとの疑問を持つことがあります。レファレンスを積極的に行うためには、レファレンス・カウンターを別置して専任の司書を配置すべきである。置いていないところは、引け目を感じて努力をすべきだ。

学校図書館を含め、すべての図書館において「図書館は人なり」と言ふことができる。司書の活動によつてサービスが高まり、利用者が自ら育つ実例については、向日市や同志社国際中・高校の実践から学びたい。

に、専任の専門家がないことには図書館が本来的に機能しないことを十分に理解させる必要がある。また大学教員なども、そのために動く必要があると思う」と答えられた。

◎報告1 「レファレンスサービスを充実するため」

芦田穂子
当日市立図書館

当館は職員七名で、貸出カウンターと、参考図書室カウンターをローテー

ションしており、利用者からの多様な質問に素早くより的確に応対するためには「全員が資料を知ることに尽きる」と考えています。その一つの方法としてレファレンスブック研

究会を組織し勤務時間外で活動しています。レファレンスブック研究会の活動内容は、レファレンスブック研究会

の研究発表と図書館見学の二つからなります。研究発表は発表者が一つの資料の詳細な使い方を述べ、図書館見学は先進地域の図書館へうかがつ

ています。これまで八年間に五十三冊の資料をとりあげ、十八館の図書館へ行きました。設立当初は、経験も

資料の知識も浅く利用者の質問にてんてこまいだった私どもも、研究会のおかげで解決速度も早くなり、利

用者とも余裕を持って接することができます。これまで八年来、利用者と資料の橋渡しができるようになりました。今後は

編集委員付記

基調報告に関連して、参加者から

「最近の図書館の中には、建物は立派になり面積も何倍かに増えても、職員を増やす新規採用もほとんどしないところがある。せっかく図書館で役立ちたいと司書になつても、下請け会社アルバイトでしか働けない。このあたりを、どう考えるか」との質問があつた。

これについては、「自治体の当局

◎報告2 「大学図書館の今日的機能と図書館員の役割」

都・京・回5

京都産業大学図書館
赤瀬美穂

本学図書館ではOPAC、CD-ROM、オンライン・データベース、インターネットなどの電子情報源によるサービスを積極的に行ってきました。その際の経験から、今後情報源の多様化・高度化に伴って、これからの図書館員に必要なのは、①電子情報源の検索知識・技術、②情報収集能力、そして入手した情報を加工編集する能力、③有用な情報かどうかを識別する能力、④インターネットなどに役に立つ情報を発信する能力、⑤常に情報源の動向に注意すること、などであると思う。

そしてもとも大切なのは、利用者が必要とするものをよく知ること、また利用者にその時点での最新・最善の情報検索方法があるという、その存在を知らせる努力を怠ってはならない、という点で利用者教育の必要性を強く訴えたいと思う。資料形態や利用の仕方の変化をどのように図書館機能にとりこむか、柔軟な対応が求められている。



◎報告3 「自ら発見し、自ら育てる図書館―学校図書館の現場から―」

同志社国際中・高等学校図書館
戸田久美子

学校図書館が、生徒の日常生活の動線上に位置し、（生徒及び教職員に限定された）利用者と直接結びついた運営をしている―その状態をスライドにて報告した。

また、学校図書館の独自性を、利用者の自由意志で行く時間外一カリキュラム上に組み込まれている―に見いだし、そこで行われる利用者教育について、その体系化、日常化に話を及ぼせた。利用者教育が、それ自体で完結することなく、日常生活へ還元され、賢い図書館利用者（＝情報リテラシーの熟達者）を育てることが、学校図書館の大きな役割の一つである。

最後に、時代の要請に伴い、図書館で扱うメディアも多様化、多量化が進んでいる。情報を一方的に与えるとともに、学校図書館の役割が大きくなっている。そのため、資料の内容についてよく知っておくこと、また、インターネット時代になりつつある現在では電子情報源の必要性と、それらを使いこなす職員の技能についてまで、報告の中でも述べられました。

また、情報媒体が何であっても、利用者が何を望んでいるのかを職員がしっかりと把握しておくことが大切だということも報告の中にありました。



はじめて参加した
京都図書館大会に参加して

舞鶴市立西図書館
河田美奈子

利用者への情報・資料提供や、レファレンス・サービスを開拓していく上で、情報源というものはとても重要なものです。

そのため、資料の内容についてよく知っておくこと、また、インターネット時代になりつつある現在では電子情報源の必要性と、それらを使いこなす職員の技能についてまで、報告の中でも述べられました。

はじめて参加した
京都図書館大会に参加して

小谷洋子
大宮町図書室

京図連協に加盟して二年目、今回初めて京都図書館大会に参加させていただき、さまざまな館種の現状を知る貴重な機会となりました。わが町の実状を思うと、そのギャップに愕然としましたが、それも現実。図書館政策を行政に位置づけ、施設の充実を図ることはわが町の必須の重要な課題です。羨望の思いを抱くより、まず着実に、公民館図書室に携わる者として、司書として、自らの役割と課題の重さを真摯に受け止め、情報化、ニューメディア化に対応できるよう自己研鑽とサービスに努めなければと痛感しております。

専門委員会二ユース

◎研修研究委員会

今年度の研修は次のとおりです。
多数のご参加をお願いします。

実務研修会（一泊研修）

日時：二月六日（木）午後一時から

二月七日（金）正午まで

場所：ホテルセントノーム京都

テーマ：

レフアレンスと図書館員の役割

講演：「レフアレンスサービスも

人なり」

講師：武内隆恭氏
(京都橘女子大学教授)

分散会：

助言者 河原 隆恭氏
忠氏

実務研修会（南部会場）

日時：二月二十一日（金）

午後一時三〇分～四時
場所：亀岡市立図書館

テーマ：

これから図書館ネットワーク
講師：高向洋祐氏
(亀岡市立図書館長)

実務研修会（北部会場）

日時：三月六日（木）

午後一時三〇分～四時
場所：綾部市図書館

内容：ブックトーク講習会

講師：北畠博子氏
(京都科学読み物研究会)

◎相互協力委員会

十一月十五日に第一回相互協力委員会を開きました。その内容を含めて委員会の取り組みを報告します。

相互貸借実態調査の集計が終了し

ました。調査結果によると、相互貸借総冊数は一八、八一四冊、前回調査（平成二年度）の三倍になっています。市町村間の貸借だけを見ると大幅に増えたことを示しています。

WANTEDの増加に伴い所蔵調査に手間がかかり無駄が多いこと等の改善を求める意見や、府立図書館に對して蔵書の充実を求める意見が多く出されています。調査結果は早急に各図書館等へ配布する予定です。

「雑誌新聞総合目録」については、使いやすさの点から、追録ではなく、改訂版を作ることになりました。今

年度中に調査票を配布し、新年度の受入雑誌が確定した時点で報告してお願いします。

また、相互協力実務担当者会議は、

「相互協力における県立図書館の役割（仮）」というテーマで行う予定です。詳しいことが決まり次第、案

出し、連絡協力車の巡回はどうなるのか等の質問が出されました。理事会に報告し、対応を考えていただく予定です。

◎広報委員会

本年度第二回広報委員会を十一月六日に田辺町立中央図書館で開催し、会報四十一号を六ページだてとする

こと及びその編集方針と記事分担を決定しました。

八月には国会図書館関西館の設計最優秀賞が決定され、また九月十九日に府立図書館全面改築基本計画が公表され大きな話題になりました。

会報ではこの新府立図書館の建設計画も含め五十嵐一郎館長に執筆依頼をし一面を飾ることになりました。

そして特集として十二月五日開催の「第五回京都図書館大会」をとりあげることになり、委員長以下出席可能な委員で取材することを確認しま

め、盛り沢山の研修報告を掲載いたしました。細部までお伝えすることはできませんが、少しでも図書館サービスの充実につながれば幸いです。

新年を迎えて希望に満ちた年になるよう、お互い研鑽に努めましょう。

編集子

した。
次回の委員会は一月二十四日に、久御山町立図書館で「会報四十二号の編集と分担について」を内容にして行います。